

平成 24 年 3 月

池田欣史 学位論文審査要旨

主 査 清 水 英 治
副主査 福 本 宗 嗣
同 井 上 幸 次

主論文

Assessment of real-time polymerase chain reaction detection of *Acanthamoeba* and prognosis determinants of *Acanthamoeba* keratitis

(Real-time polymerase chain reactionによるアcantアメーバの検出とアcantアメーバ角膜炎の予後決定因子の評価)

(著者：池田欣史、宮崎大、矢倉慶子、川口亜佐子、石倉涼子、井上幸次、水戸毅、

白石敦、大橋裕一、檜垣史郎、板橋幹城、福田昌彦、下村嘉一、八木田健司)

平成24年 Ophthalmology 掲載予定

審査結果の要旨

本研究はアcantアメーバにおけるreal-time polymerase chain reaction (TaqMan Probe法) を構築し、その感度・特異度およびアcantアメーバ角膜炎の診断・治療効果判定および視力予後予測に関わる危険因子を検討したものである。その結果、real-time PCRの感度・特異度は、直接検鏡・培養と比べ高く有用であり、アcantアメーバ角膜炎において初診時のアcantアメーバコピー数が初診時の角膜炎の重症度および視力と、さらには視力予後とも相関があることが判明した。このことはアcantアメーバ角膜炎で早期診断・早期治療が非常に重要であることを示している。一方で共存する細菌のコピー数はいずれとも相関しないことが示された。本論文の結果はreal-time PCRによるアcantアメーバコピー数の測定が、アcantアメーバ角膜炎の診断・治療効果判定ばかりでなく、視力予後の予想に有用であることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。